

仕様書番号
BSE00815

製作仕様書

電力需給用複合計器（精密級）

AP3EA-K40R

受領印欄

2006年10月作成

承認	調査	作成

大崎電気工業株式会社

目 次

1. 総 則	1
2. 機 能	3
3. 性 能	13
4. 外形寸法	16
5. 端子構造	17
6. 電線接続図	17
7. 表示例	18

1. 総 則

1.1 適用範囲

この規格は、計器用変成器または計器用変圧器および計器用変流器（二次側三相3線式 110V 5A）とともに取付ける電子式複合計器（以下計器という）に適用します。

1.2 計器の名称、定格値

電力需給用複合計器（精密級）三相3線式 AP3EA-K40R形	
定格電圧	110(V)
定格電流	5(A)
定格周波数	50(Hz)
計器定数	1,000(pulse/kWs)、1,000(pulse/kvars)
パルス定数	50,000 または 2,000(pulse/kWh) [スイッチ切替]
無効電力の動作	遅電流用

1.3 計器の種類

本計器は、次の計器を一体化した電子式電力需給用複合計器とします。

- ①精密電力量計 (全日電力量測定用)
- ②普通電力量計 (昼間力率測定用)
- ③無効電力量計 (昼間力率測定用)
- ④最大需要電力計
- ⑤時間帯切替用タイムスイッチ

1.4 計器の機能

(1) 表示項目

①動作状態表示

kWh 動作、kvarh 動作、無計量、停電

②現在画面

全日電力量、力測用電力量、力測用無効電力量、最大需要電力、現在需要電力、経過時限、現在時刻（時・分）

③検針画面

全日電力量、力測用電力量、力測用無効電力量、最大需要電力、累積最大需要電力、力率、計量確定月日、「検針」表示

④設定画面

画面自動表示周期時間、現在年、現在月・日、計量確定日、現在時刻（時・分）

1.5 構造

- | | |
|------------|---|
| (1) 取付構造 | 表面取付、表面接続式 |
| (2) ベース | アルミ合金
塗装（エポキシ系樹脂粉体塗装、マンセル値 N5） |
| (3) カバー | アルミ合金（窓ガラス付、合成ゴムパッキン付、封印ねじ付）
塗装はベースと同じ。 |
| (4) 端子ボックス | 端子ブロックは、難燃性樹脂成型品とします。
端子金具、端子ねじは黄銅製とします。 |

表 1 端子金具、端子ねじ

定格電流	端子穴径	端子ねじ径	端子ねじ本数
5 A	5.7 mm	M5	2本

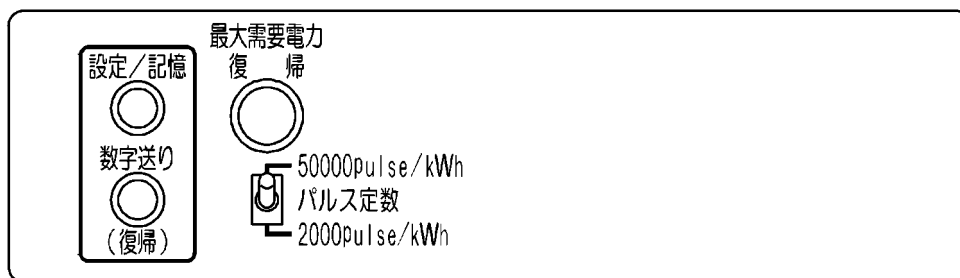
- | | |
|-------------|---|
| (5) 端子カバー | 鋼板製（合成ゴムパッキン付、封印ねじ付）
塗装は、ベースと同じ。 |
| (6) 設定部カバー | 鋼板製（合成ゴムパッキン付、封印ねじ付）
塗装は、ベースと同じ。 |
| (7) 停電補償用電池 | リチウム電池（検定封印内に設けます）
（注）停電補償時間については、2.16 項を参照してください。 |
| (8) 銘板 | アルミニウム製 |

1.6 操作部

操作部に関する事項は次のとおりとします。

- (1) 操作部の配列は図 1 のとおりとします。
- (2) 小電流用押しボタンスイッチとし、動作接点機構はモーメンタリースイッチとします。
- (3) パルス定数の切替は、トグルスイッチによるものとします。

図 1 操作部の配列



2. 機能

2.1 計量項目

計量項目は、次のとおりとします。

- ①全日電力量
- ②昼間力率測定用普通電力量
- ③昼間力率測定用無効電力量
- ④最大需要電力
- ⑤現在需要電力

2.2 計測・計算項目

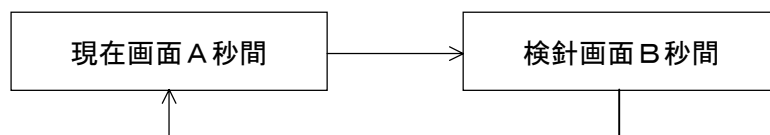
計測・計算項目は次のとおりとします。

- ①現在時刻（年、月、日、時、分）
- ②月間平均力率

2.3 表示方法

- (1) 乗率は合成変成比倍とします。
- (2) 最低位数字は、1 ずつ躍進するものとします。このとき最低位に満たない計量値は切り上げません。
- (3) 画面は次のとおり周期的に自動表示するものとします。ただし、各表示時間 A, B は 30 秒から 120 秒の間で 30 秒間隔で設定画面において「設定／記憶」「数字送り」の二つの押釦により調整可能とします。

（初期値は表示時間 A : 30 秒 表示時間 B : 90 秒とします）



- (4) 停電中は検針画面で固定とします。

(5) 各表示部の表示方法、桁数は表2のとおりとします。

表2

画面		現在画面	検針画面	設定画面
表示部				
精密電力量計 (全日電力量)		計量器取付時以降、現在までの 累積指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	計量器取付時以降、N月X日 0:00 または手動復帰時点まで の累積指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	×
普通電力量計 (力測用電力量)		計量器取付時以降、現在までの 力測時間帯 (8:00~22:00) 累積 指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	計量器取付時以降、N月X日 0:00 または手動復帰時点まで の力測時間帯 (8:00~22:00) 累 積指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	×
無効電力量計 (力測用無効電力 量)		計量器取付時以降、現在までの 力測時間帯 (8:00~22:00) 累積 指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	計量器取付時以降、N月X日 0:00 または手動復帰時点まで の力測時間帯 (8:00~22:00) 累 積指示数 ・ 6桁 (整数位4桁)	画面自動表 示周期時間
最大需要電力計 (最大需要電力)		毎月の計量日 (N月X日) の 0:00 または手動復帰後から現 在までの最大需要電力 ・ 4桁 (整数位1桁)	(N-1)月X日 0:00、または 手動復帰後からN月X日 0:00 または手動復帰時点までの最 大需要電力 ・ 4桁 (整数位1桁)	現在の西暦 ・ 4桁
現在需要電力 (累積最大需要電 力)		現在需要時限における電力 ・ 4桁 (整数位1桁)	計量器取付時以降からN月X 日 0:00 または手動復帰時点ま での累積最大需要電力 ・ 4桁 (整数位2桁)	現在の月日 ・ 4桁 (月2桁、 日2桁)
時 限 (力率)		現在需要時限の経過分 ・ 2桁	前々回計量確定日の0時また は手動復帰後から前回計量確 定日の0時または手動復帰時 点までの平均力率値であって 力測用電力量、同無効電力量表 示値をもとに計算し、%表示の 小数第1位を四捨五入した値 とします。(例: 100%はFF) ・ 2桁	計量確定日 ・ 2桁
現在時刻 (計量確定日)		現在時刻 ・ 4桁 (24時間制表示) “:” マーク1秒間隔点滅	計量確定をした月・日 ・ 4桁 (月2桁、日2桁)	現在時刻 ・ 4桁
画面表示		×	「検針」と表示	×
動作 状態 表示	kWh	●の点滅。電力量計の計量状態を表示します。周期は2回/kWs とします。 逆潮流時、無負荷時は消灯します。力測時間帯に関係なく動作します。		
	kvarh	●の点滅。無効電力量計の計量状態を表示します。周期は2回/kvars としま す。逆潮流時、無負荷時は消灯します。力測時間帯に関係なく動作します。		
	無計量	●の点灯。有効および無効電力が無負荷あるいは、逆潮流時も点灯とします。 停電時は消灯とします。		
	停電	●の点灯。商用電源が停電している場合に点灯。 (P3相のみが欠相の場合は停電として取扱いません。)		

(注) ×印は空白 (00の表示もしません)

2.4 最大需要電力計の機能

最大需要電力計の機能は、次のとおりとします。

- (1) 需要時限は、30分固定とします。
- (2) 需要時限のスタートは、内蔵時計の00分、30分に同期します。
- (3) 需要時限の表示は00分から29分の繰り返しとします。
- (4) 最大需要電力の復帰（零リセット）は次のようになります。

①手動復帰（臨時検針機能）

操作部の「最大需要電力復帰」釦を押すことにより、現在画面の精密電力量計（全日電力量）、力測用普通電力量計（力測用電力量）、力測用無効電力量計（力測用無効電力量）および最大需要電力計の最大需要電力の計量値（表示値）が、検針画面に記憶されるとともに、現在画面の最大需要電力表示値と現在需要電力表示値は復帰し、「零」にリセットします。

この場合、検針画面の「現在時刻」表示窓への計量確定をした月日の表示は、設定してある計量日にかかわらず、手動復帰を実行した「月・日」を記憶するものとします。

また、現在時刻を修正した場合は、その修正を実行（記憶）した時点に、現在需要電力の表示のみ復帰し、「零」にリセットします。

この操作を行っても、現在画面および検針画面の最大需要電力の表示には、影響しないものとします。

②自動復帰（計量確定日の0時）

あらかじめ設定された計量確定日（計量確定日がない場合は、その月の最終日）の00時00分になった瞬間に、現在画面の精密電力量計（全日電力量）、力測用普通電力量計（力測用電力量）、力測用無効電力量計（力測用無効電力量）および最大需要電力計の最大需要電力の計量値（表示値）が検針画面に記憶されるとともに、現在画面の最大需要電力表示値と現在需要電力表示値は復帰し、「零」にリセットします。この場合検針画面の「現在時刻」の表示窓の表示は計量確定を実行した月・日（途中で「計量確定日」の設定変更をしていない場合は、「計量確定を実行した日」＝「計量確定日」となる）を記憶するものとします。

- (5) (4)①の最大需要電力の手動復帰の機能は、現在画面または、検針画面の場合に機能するものとし、設定画面の場合は、機能しないものとします。
- (6) 停電状態にあっても(4)の機能は、機能するものとします。
- (7) 時刻修正したとき、その時点の現在需要電力を零とし、直ちに現在需要電力の計量を開始するものとします。このとき最大需要電力は不変とします。

2.5 無効電力量計の機能

無効電力量計の構成方式は、JIS C1263「無効電力量計」のA-1遅電流用相当とします。

なお、逆進防止付とします。

2.6 計量確定機能

計量確定機能は、次の項目および表3のとおりとします。

(1) 自動記憶

設定画面においてあらかじめ設定した計量確定日（計量確定日がない場合は、その月の最終日）の00時00分になった瞬間に、現在画面の精密電力量計（全日電力量）、力測用普通電力量計（力測用電力量）、力測用無効電力量計（力測用無効電力量）および最大需要電力計の最大需要電力の計量値（表示値）を検針画面に記憶します。なお、その表示は検針画面で行います。

また、現在画面の最大需要電力表示値と現在需要電力表示値は復帰し、「零」にリセットします。この場合検針画面の「現在時刻」の表示窓の表示は計量確定を実行した月・日（途中で「計量確定日」の設定変更をしていない場合は「計量確定を実行した日」＝「計量確定日」となる）を記憶するものとします。

なお、設定行為による故意的な年月日、時刻送りによって計量日の00:00となっても、(1)の機能は動作しないこととします。

〔注〕時計の計時により、「計量確定日」の前日の23:59から「計量確定日」の00:00になった場合のみ(1)の機能の動作を行います。

(2) 手動記憶

操作部の「最大需要電力復帰」釦を押すことにより現在画面の精密電力量計（全日電力量）、力測用普通電力量計（力測用電力量）、力測用無効電力量計（力測無効電力量）および最大需要電力計の最大需要電力の計量値（表示値）を検針画面に記憶します。なお、その表示は検針画面で行います。

また、現在画面の最大需要電力表示値と現在需要電力表示値は復帰し、「零」にリセットします。この場合、検針画面の「現在時刻」表示窓の表示は、設定してある計量確定日にかかわらず、手動復帰を実行した「月・日」を記憶するものとします。

(1)、(2)により記憶した表示値は、(1)または、(2)の動作により新しい指示値が入力された瞬間に、前の指示値を新しい指示値に更新するものとします。

表3 計量確定動作

動作行為	設定された計量日 (X日00:00)動作の場合			「最大需要電力復帰」 釦を押した場合		
	現在	検針	設定	現在	検針	設定
計量確定動作の可否	○	○	○	○	○	×

〔凡例〕○：計量確定時点値記憶動作 可
×： " " " 否

2.7 時計機能

時計機能は次のとおりとします。

- (1) 通電時（商用電源）は電源周波数に同期し、停電後240時間以内は水晶発振器による時計とします。
- (2) 水晶発振器による時計の精度は、温度条件が0～50℃の場合±18秒/日以内-25～0（未満）℃および50（超過）～70℃の場合±25秒/日以内とします。
- (3) 無電圧時（商用電源と停電補償用電池もない状態）から電圧を印加された場合、あるいは、240時間を超える停電があり、商用電源が印加された場合の初期表示（設定）は「00:00」とし、計時も開始します。

2.8 カレンダー機能

カレンダー機能は次のとおりとします。

- (1) 2005 年から 2030 年までの万年カレンダーを内蔵します。
以降 5 年毎に N 年から (N+25) 年までの万年カレンダーを内蔵します。
- (2) 年月日の設定機能を有します。
- (3) 無電圧時から印加された時の初期表示は 2005 年 1 月 1 日とします。
なお、(1)により以降 5 年毎に N 年 1 月 1 日とします。

2.9 力率測定用計量時間帯

力率測定用計量時間帯は、8 時から 22 時とします。

2.10 力率計算

力率は、次式により計算し、小数点以下第 1 位を四捨五入して整数位のみ表示するものとします。ただし、分母は小数点以下 6 桁まで計算し、7 桁以降は切捨てとします。

$$\text{力率} = \frac{P}{\sqrt{P^2 + Q^2}} \times 100$$

P : 月間力測電力量
Q : " 無効電力量

- (注)・ P [Q] が負になった場合 P + 10,000 (=10⁴) → P、[Q + 10,000 (=10⁴) → Q] と置換えて力率計算を行います。
・ 力率 100%は FF と表示します。

2.11 停電補償用電池の節電機能

電池の節電機能は、次の各項目とします。

- (1) 動作条件
商用電源が無電圧となり、連続して 240 時間経過した場合に節電機能が動作します。
- (2) 節電内容
 - ① LCD の表示消灯
 - ② 時計の停止
各電力量計の計量指示値は、メモリし、節電機能を復帰させた場合は、その指示値を表示します。
- (3) 復 帰
次の場合に節電機能は動作解除となり、復帰します。
 - ① 商用電源が通電した場合
 - ② 「設定／記憶」釦を押した場合

2.12 設定部の機能

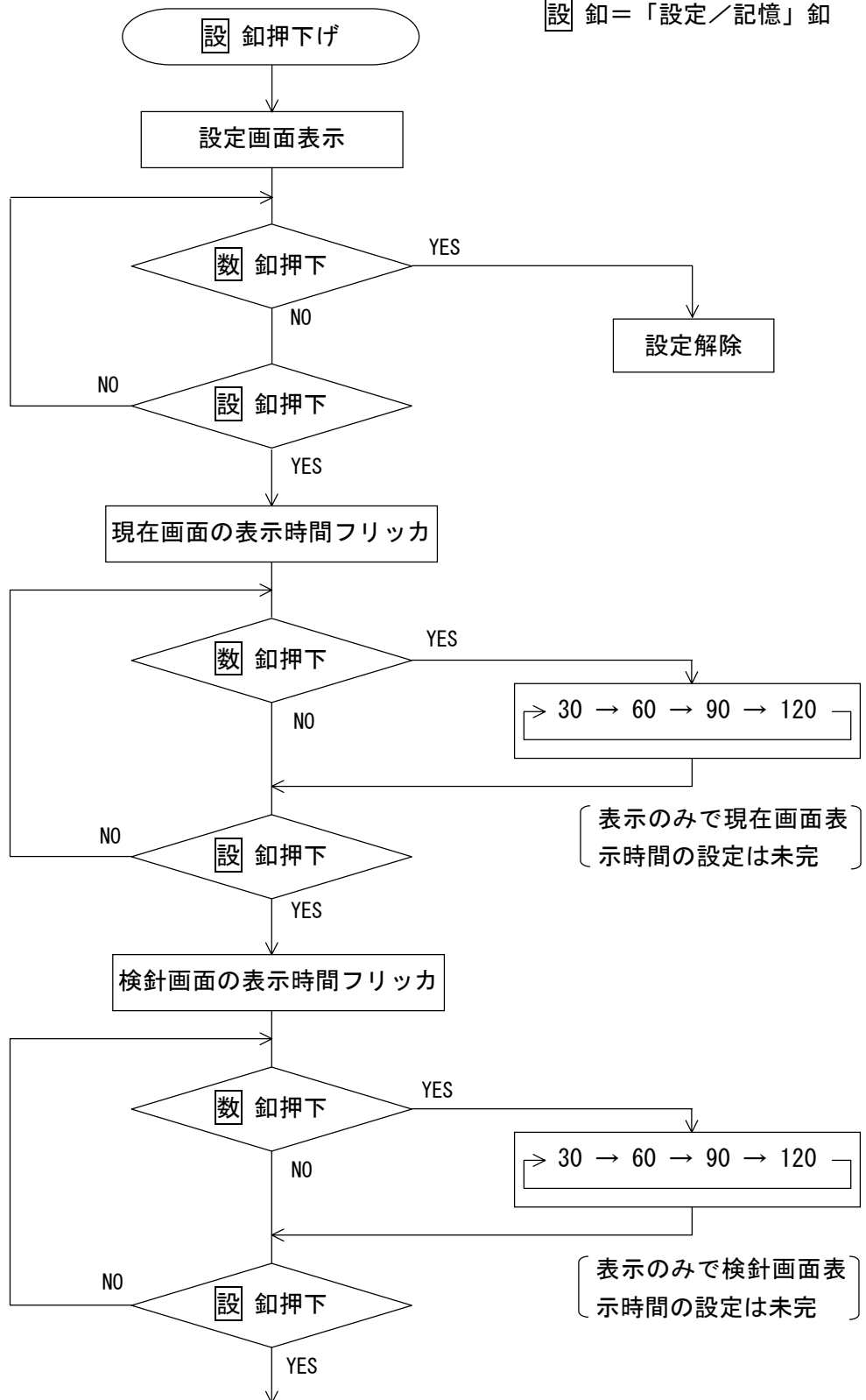
設定部の機能は、次のとおりとします。なお、商用電源の有無にかかわらず機能するものとします。

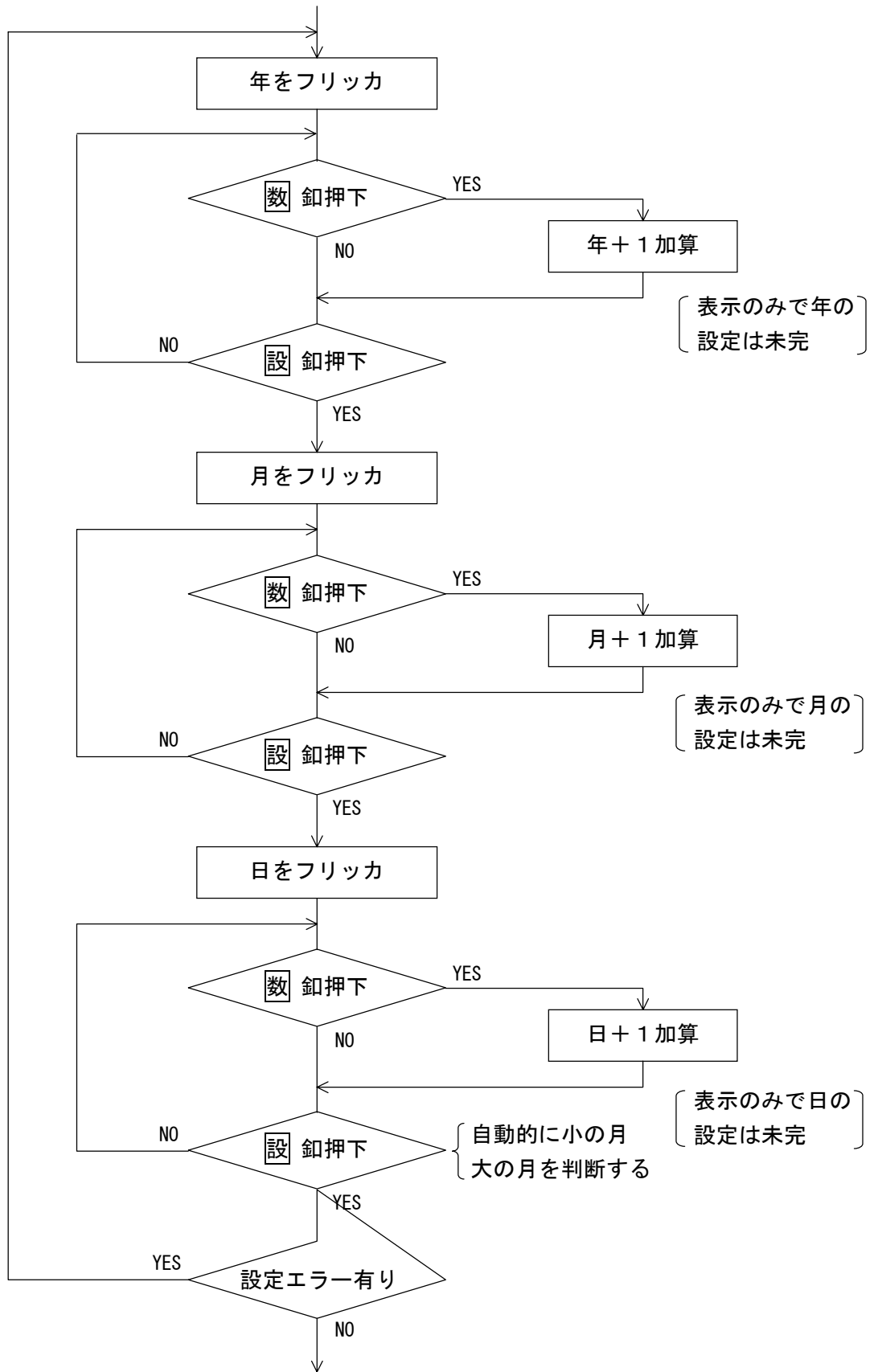
- (1) 画面自動表示周期時間、現在年月日、計量確定日、現在時刻は、「設定／記憶」釦、「数字送り」釦を操作することにより設定・修正可能とします。
- (2) 設定行為における命令待機時間は、最初に「設定／記憶」釦を押してから、次に釦を押すまでの間の 5 分間とし、これを経過した場合は、設定入力内容を無効（キャンセル）にして元の設定内容に戻るものとします。
- (3) 時刻は、設定中も通常通り時間を計時し続けるものとします。なお、設定画面にした時点で画面に表示される「現在時刻」については停止状態になります。
設定は、「分」を設定し、「設定／記憶」釦を押した時点で完了するものとします。

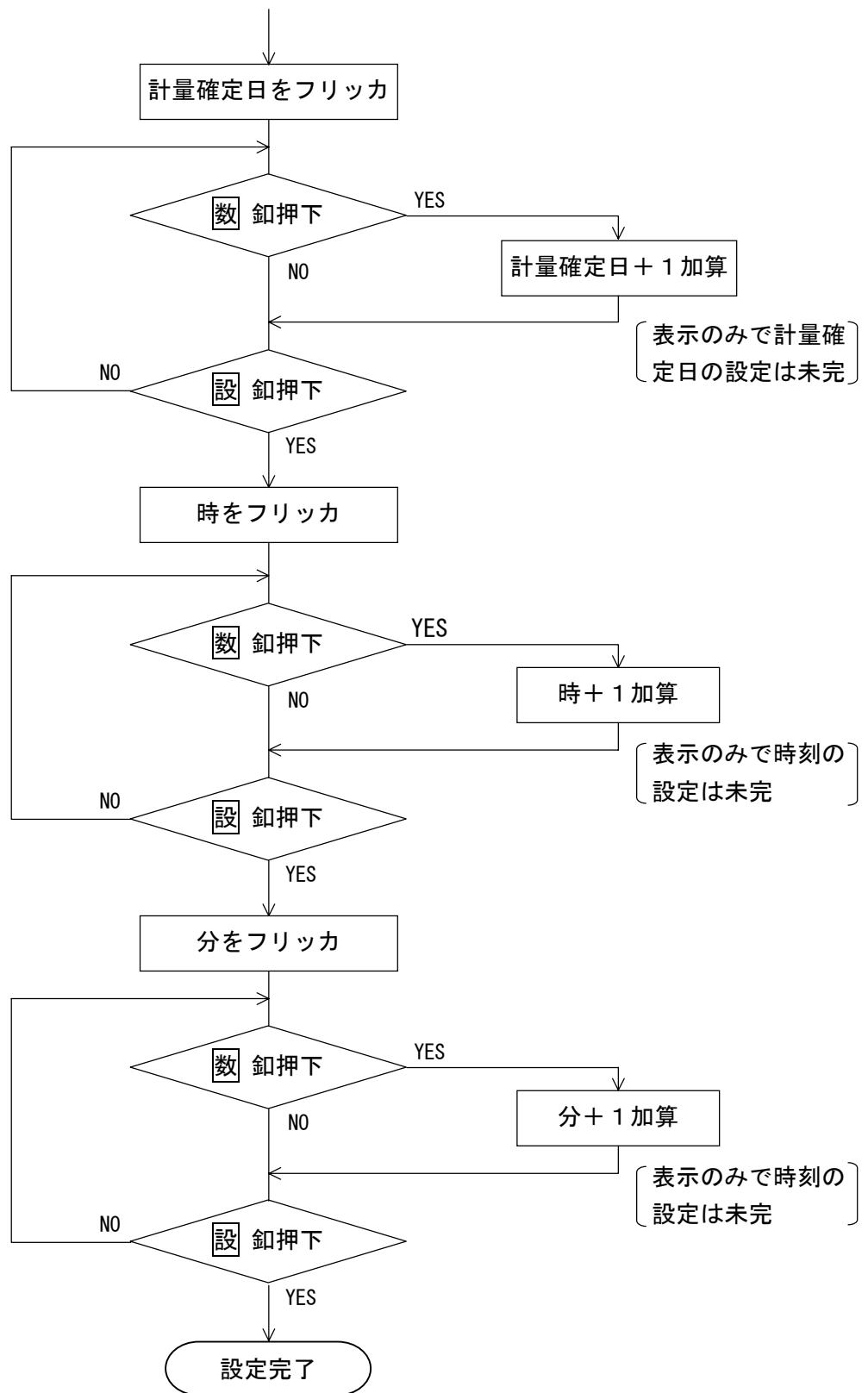
設定フロー

数 釦 = 「数字送り」釦

設 釦 = 「設定／記憶」釦







2.13 出力パルス

出力パルスは次のとおりとします。

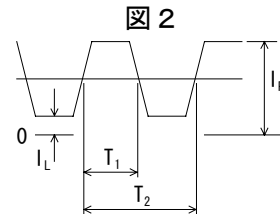
(1) お客さまサービス用有効電力量パルス

① C1、C2間をリード線で短絡したとき、リード線に流れる電流は、50,000pulse/kWh または 2,000pulse/kWh とし、パルス回路電線着脱のいずれの状態にあっても、計量部の機能に支障を生じないものとします。

② 50,000pulse/kWh および 2,000pulse/kWh のパルス出力波形は、次のようになります。

a) 50,000pulse/kWh

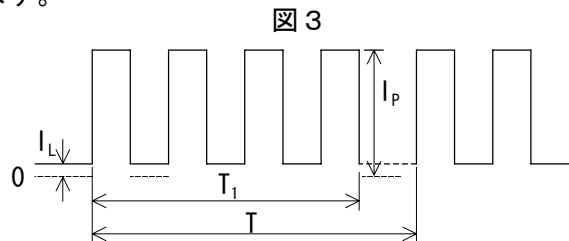
- ・ $T_1, T_2 - T_1$: 12.6ms 以上
- ・ I_P : 10mA 以上
- ・ I_L : 1×10^{-2} mA 以下
- ・ 立上り、立下り : 2ms 以下



b) 2,000pulse/kWh

2,000pulse/kWh をパルス列で変調を行い、パルス列の周波数を $400\text{Hz} \pm 10\text{Hz}$ としそのオンとオフの周期は1対1とします。

- ・ T_1 : 0.1~0.3s
- ・ $T \geq 0.63\text{s}$ (300%時)
- ・ I_P : $15\text{mA} \pm 1.5\text{mA}$
- ・ I_L : 1×10^{-2} mA 以下

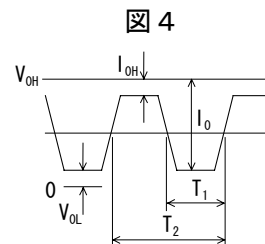


(2) 検定用パルス

① 計量パルス

D端子の下側に出力される計量パルスは、1,000 pulse/kWh 1,000 pulse/kvars の有効、無効パルスとし、フォトカプラを用いたオープンコレクタ方式でイヤホンジャック（ステレオタイプ）に出力し、出力条件は次のとおりとします。

- ・ パルス最大印加電流 I_O : $10\text{mA} \pm 5\text{mA}$
- ・ " " 電圧 V_{OH} : 30VDC
- ・ $T_1, T_2 - T_1$: $32\mu\text{s}$ 以上
- ・ 立上り : $150\mu\text{s}$ 以下
- ・ 立下り : $70\mu\text{s}$ 以下
- ・ ローレベル出力電圧 V_{OL} : 1.5V 以下
- ・ ハイレベル出力電流 I_{OH} : 0.1mA 以下

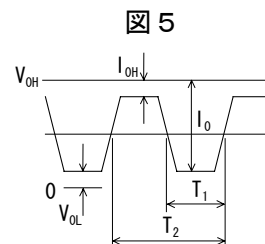


② 時限パルス

D端子の上側に出力される時限パルスは、時限表示窓の00分および30分に同期し1パルスをフォトカプラを用いたオープンコレクタ方式でイヤホンジャック（ステレオタイプ）に出力し、その出力条件は次のとおりとします。

なお、停電状態であっても出力するものとします。

- ・ パルス最大印加電流 I_O : $10\text{mA} \pm 5\text{mA}$
- ・ " " 電圧 V_{OH} : 30VDC
- ・ $T_1, T_2 - T_1$: $150\mu\text{s}$ 以上
- ・ 立上り : $150\mu\text{s}$ 以下
- ・ 立下り : $70\mu\text{s}$ 以下
- ・ ローレベル出力電圧 V_{OL} : 1.5V 以下
- ・ ハイレベル出力電流 I_{OH} : 0.1mA 以下



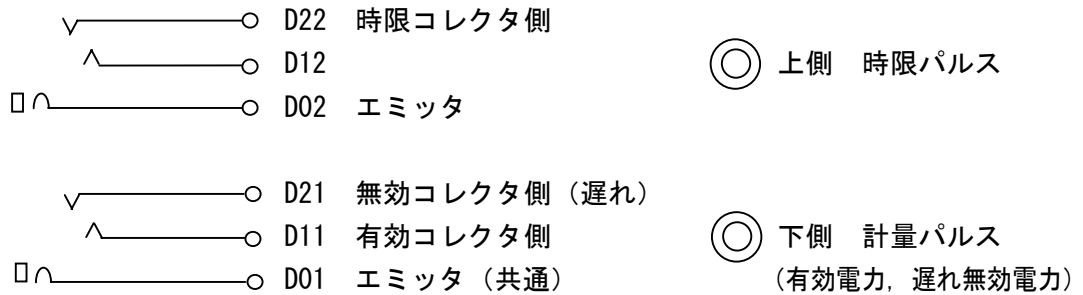
③ 検定用パルスは、2系統のイヤホンジャック（ステレオタイプ）2本とし、イヤホンジャックの仕様および配線接続は次のとおりとします。

a. 仕様

①穴内径は3.6mmとします。

②その他の規格はEIAJ（日本電子機械工業会）RC6701Aに準ずるものとします。

b. 配線接続



2.14 潜動

正相順においても、逆相順においても潜動を防止する潜動防止回路を具備します。

2.15 逆潮流

逆潮流電力は計量しないものとします。さらに逆潮流時には無効電力量の計量も停止するものとします。

2.16 停電補償

停電補償は次のとおりとします。

停電補償は電池（1次電池）で行い、電池は一検定期間（7年間）の使用状態のもとで、次の停電パターンに対して十分補償できるものとします。

$$\left(\begin{array}{|c|} \hline \text{作業・事故} \\ \text{停電} \\ \hline \text{8日} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{流通ロス} \\ \hline \text{連続10日} \times 2 \\ \text{連続20日} \times 2 \\ \text{連続30日} \times 3 \\ \hline \end{array} \right) \times \begin{array}{|c|} \hline \text{安全率} \\ \hline \text{1.1以上} \\ \hline \end{array}$$

なお、上記の流通ロスには節電効果を加味します。

（注） 停電が上記停電累積時間を超えますと、電池の消耗により停電補償（計量値の保持など）が出来なくなる事があります。

3. 性能

各性能の許容限度は表4のとおりとします。

表4

項目	試験条件			許容限度
1. 誤差の許容限度	定格周波数・定格電圧			±1.5% ±1.0% ±1.5% ±1.0% ±2.5% ±2.5%
	計器の種類	力率	負荷電流 (%)	
	精密電力量計	1.0	5	
			10~120	
		0.5(遅)	10	
		0.8(遅)	20~120	
無効電力量計	0	10~120		
	0.866(遅)	20~120		
2. 始動電流	定格周波数・定格電圧において10秒間印加			計量パルスが2パルス以上発信を継続すること
	計器の種類	力率	負荷電流 (%)	
	精密電力量計	1.0	0.3	
	無効電力量計	0.866(遅)	1.0	
3. 潜動	無負荷・定格周波数において、定格電圧の90%、110%の電圧を90秒間印加			計量パルスが発生しないこと
4. 逆方向電流の影響	定格周波数・定格電圧において、逆方向電流を下記条件にて10秒間印加			計量パルスが発生しないこと
	計器の種類	力率	負荷電流 (%)	
	精密電力量計	1.0	0.3	
	無効電力量計	0.866(遅)	1.0	
5. 自己加熱の影響	① 定格周波数で定格電圧を1時間以上印加後、定格電流印加			誤差の変化
	② 定格周波数で定格電圧・定格電流同時印加			
	計器の種類	力率	経過時間(分)	
	精密電力量計	1.0	0~30	
			0.5(遅)	
		0.5(遅)	30~120	
			1.0	
	無効電力量計	0(遅)	0~30	
0.866(遅)				
0(遅)		30~120		
		0.866(遅)		
6. 電流特性	定格電圧・定格周波数			誤差の変化
	計器の種類	力率	負荷電流 (%)	
	精密電力量計	1.0	5~120	
		0.5(遅)	10~120	
	無効電力量計	0.866(遅)	10~120	

項目	試験条件			許容限度	
7. 不平衡負荷の影響	定格周波数・平衡定格電圧（正相，逆相）で、 1素子ごとに負荷電流を印加			平衡負荷電流に対する誤差変化の限度	許容限度
	計器の種類	力率	負荷電流（%）		
	精密電力量計	1.0	10	2.5%	±2.5%
			20～100	2.0%	±2.0%
		0.5(遅)	20	2.5%	±2.5%
			50～100	2.0%	±2.0%
無効電力量計	0(遅)	8.66～100	3.0%	±3.0%	
	0.866(遅)	17.32～100			
8. 温度特性	定格周波数・定格電圧・定格電流			10℃変化するごとに	
	計器の種類	力率	温度（℃）		
	精密電力量計	1.0	0～30	0.4%以下	
				0.5(遅)	0.5%以下
		0.5(遅)	-25～0	0.5%以下	
			30～70	0.7%以下	
無効電力量計	0(遅)	-25～70	1.0%以下		
	0.866(遅)				
9. 電圧特性	定格周波数で定格電圧を±10%変化			誤差の変化	
	計器の種類	力率	負荷電流（%）		
	精密電力量計	1.0	5～120	1.0%以下	
		0.5(遅)	10～120		
無効電力量計	0.866(遅)	10～120	1.0%以下		
10. 周波数特性	定格電圧で定格周波数を±5%変化			誤差の変化	
	計器の種類	力率	負荷電流（%）		
	精密電力量計	1.0	5～120	1.0%以下	
		0.5(遅)	10～120	1.5%以下	
無効電力量計	0.866(遅)	10～120	2.0%以下		
11. 力率特性	無効電力量計で、定格電圧・定格周波数・定格電流通電時の力率0(遅)と0.866(遅)との誤差の開き			2.0%以下	
12. 外部磁界の影響	計器を磁化コイル（直径1m、起磁力100アンペアの円形コイル）の中心におき定格電圧・定格周波数および力率1（電力量計）、0（無効電力量計）のもとで、定格電流の10%の負荷電流において試験			誤差の変化	
				1.0%以下	
13. 波形の影響	精密電力量計部を、定格周波数・定格電圧で力率1の定格電流を通じて、電流に10%の第三調波・第五調波を含めて、それぞれの調波による誤差の変化を試験（なお、各素子は単相接続とします）			誤差の変化	
				0.8%以下	

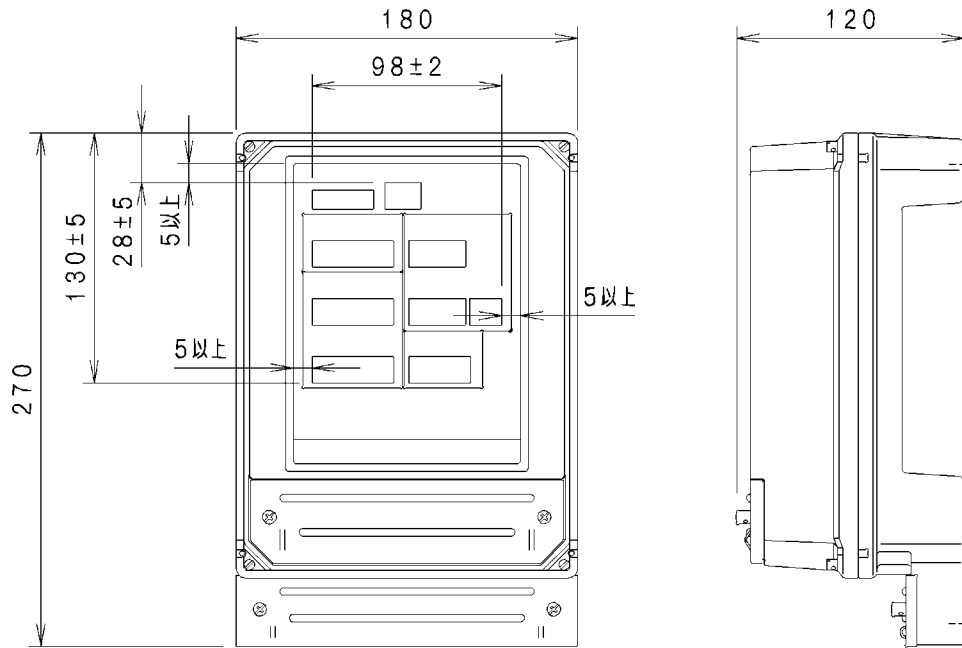
項 目	試 験 条 件	許容限度	
14. 皮相電力損失	定格周波数・定格電圧・定格電流のもとでの、皮相電力損失（各素子ごと）		
	電圧回路（P1-P2, P3-P2）	0~6.0VA	
	電流回路（1S-1L, 3S-3L）	0~0.2VA	
15. 絶縁抵抗	次の箇所を直流電圧 500V で試験します ①電圧回路とベース間 ②電流回路とベース間 ③電圧回路と電流回路間 ④電流回路相互間 ⑤電圧回路と試験・サービスパルス端子間 ⑥電流回路と試験・サービスパルス端子間 ⑦試験・サービスパルス端子とベース間	20MΩ以上	
16. 商用周波耐電圧	絶縁抵抗の①~④ 2kV 1分間	耐えること	
17. 雷インパルス耐電圧	次に示す方法で雷インパルス耐電圧試験を行います (1) 印加電圧 標準雷インパルス電圧波形：±1.2×50μs 全波電圧：7,000V (2) 印加方法 ①~④に示す箇所に各3回加えます ① 1s・P1-P2間 ② P3・3s-P2間 ③ 1s・P1-P3・3s間 ④ 1s・P1・P3・3s-P2・ベース間	異常が無いこと	
18. 最大需要電力計の誤差	(1) 表示誤差 定格周波数・定格電圧		
	力 率	負荷電流 (%)	
	1.0	20~120	±3.0%
	0.5(遅)	100	±3.0%
	(2) 機構誤差 定格周波数・定格電圧		
	力 率	負荷電流 (%)	
	1.0	20	±2.0%
	50~120	±1.0%	

4. 外形寸法

(1) 外形図

図 6

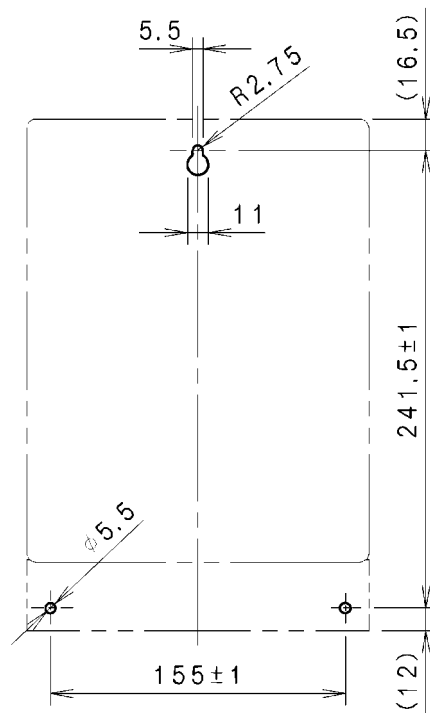
単位：mm



(2) 取付寸法図

図 7

単位：mm



(注) 公差の付いていない寸法は、標準寸法とします。

質量：約 2.5kg

5. 端子構造

図 8

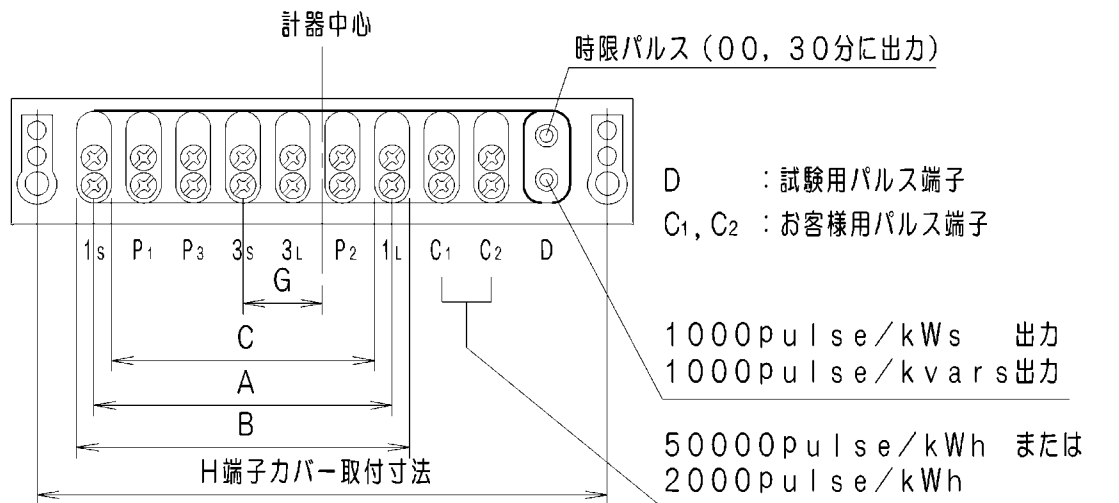


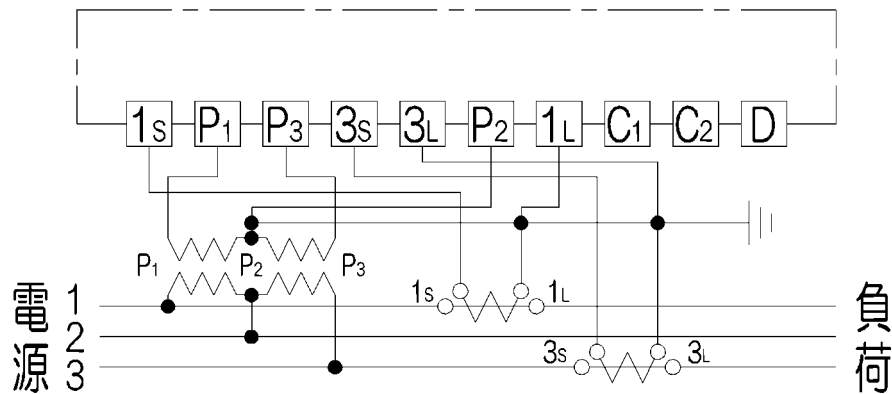
表 5 端子部の寸法

単位 : mm

端 子 部				
A	B	C	G	H
81	90.5±1	71.5±1	20.0±2	155±0.25

6. 電線接続図

図 9

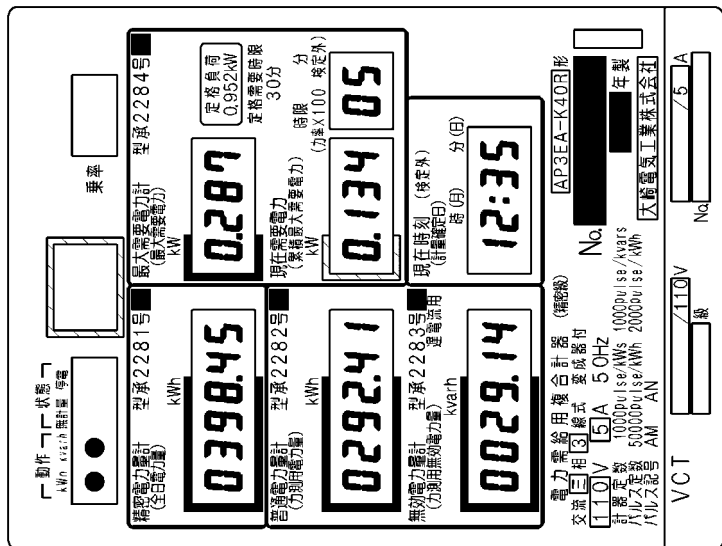


7. 表示例

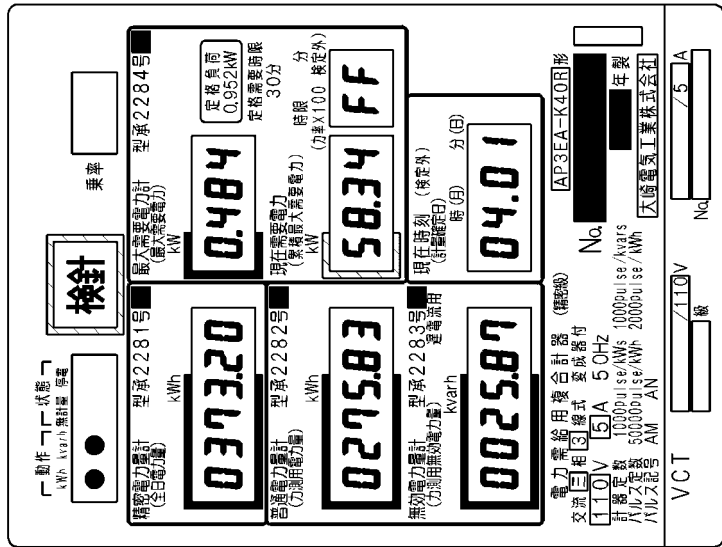
(1) VCT と組合わせる場合

高压精密級×一夕表示例

現在画面



検針画面



設定画面

